

○ 令和7年度中央卸売市場事業会計予算案

1 市場事業会計の現状及び予算編成について

札幌市中央卸売市場における取扱量は、円安や生産コストの上昇等により単価高となる一方で、漁獲量や収穫量の減少、少子高齢化や消費者ニーズの多様化、市場外流通の増加に伴う取扱量の減少傾向にあり、令和5年度の取扱額は1,450億円程度となっています。

また、経年劣化が進む施設・設備の改修・更新工事が増加傾向にあることから、今後、減価償却費の増大による費用の増加が見込まれます。

食品流通における情勢の変化に的確に対応し、札幌市中央卸売市場が今後も「持続可能な強い市場」であるための計画として、令和3年度から令和12年度の10年間を計画期間とした「第2次札幌市中央卸売市場経営活性化プロジェクト」を令和3年3月に策定し、令和7年度は、計画期間の5年目となります。

市場事業会計の財政運営は、上記のとおり厳しさを増しておりますが、令和7年度予算は支出の抑制に努め、本プロジェクトで掲げた収支均衡を維持する予算編成を行っています。

2 令和7年度市場事業会計予算案の概要

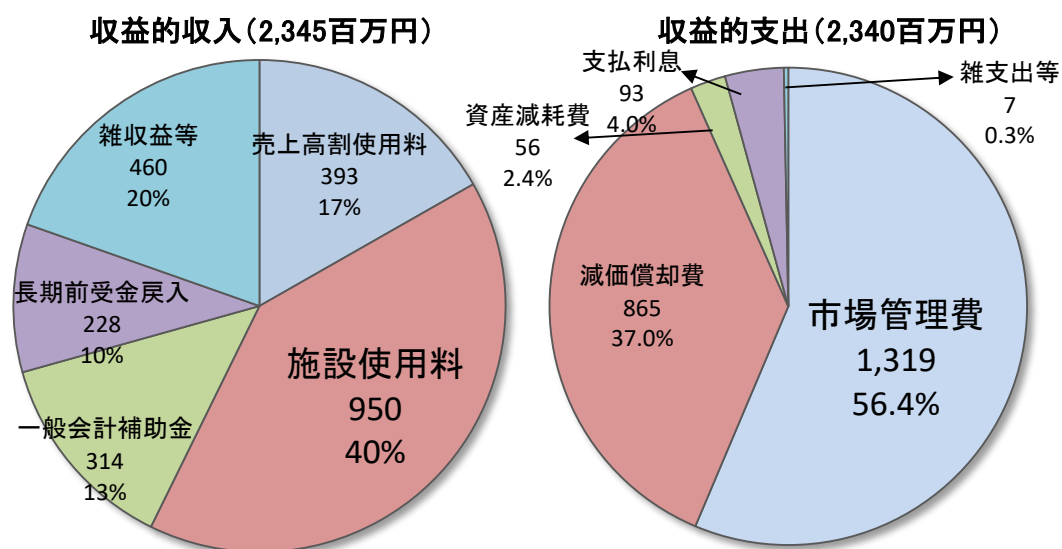
令和7年度市場事業会計予算案の主なポイントは、次のとおりです。

(1) 市場整備

水産棟冷凍機設備などの施設に係る更新を行います。

(2) 収益的収入及び支出の状況

令和7年度予算案における収益的収入及び支出の状況は、下の円グラフのとおりであり、経年劣化による設備等の改修工事的増加傾向に伴い、減価償却費が増加したほか、市場管理費における人件費や委託料が増加しましたが、令和6年度予算とほぼ同様の黒字幅で収支の均衡を維持しています。



注: 円グラフの金額には、消費税及び地方消費税を含んでおります。(単位: 百万円)